

はじめて洲本教会を訪れる方へ



すもと  
カトリック洲本教会  
Catholic Church of Sumoto

# ミサのご案内



カトリック洲本教会

## 洲本教会を訪れる皆様へ

慈しみ深い神はキリスト者だけでなく、全ての人の神であり、また、人々を限りなく愛しています。

カトリック教会は神の愛、キリストの教えと救いを多くの方に知っていただきたいので、皆様がミサを自由に体験するように望んでいます。

どうぞ、ご遠慮なくいつでも訪れてください。

ここの紹介は、大変言葉足らずで理解できない点が多々あると思いますが、わからない点などは教会でなんなれとお尋ね下さい。

心よりお待ちしております。

洲本教会広報担当



## ミサとは . . . . .



“最後の晩餐” レオナルド・ダ・ヴィンチ

### ミサの起源

キリストは死の前夜、弟子たちと共に囲んだ食事(最後の晩餐)において、私たちを愛する余り、愛の形見として「ことば」と「食事(パンとぶどう酒)」の形でご自身を残されました。

その再現がミサとなり、今から約2000年前に、初代教会の信徒がユダヤ教の「安息日(土曜日)と過ぎ越しの記念」を組み合わせ、「主の日(日曜日)」と「主の過ぎ越しの記念(キリストの晩餐、受難、死と復活)」を一つの感謝の祭儀にしました。

ミサの名前は時代により呼び名が変わり、1世紀では「パンを裂く式」、2世紀では「感謝の祭儀」、3世紀では「キリストのいけにえ」、5世紀において現在の呼び名である「ミサ、ミッション[派遣]」となりました。今日では、ミサの祭儀、感謝の祭儀という言葉がよく使われています。



# ミサ式次第



**ミサには式次第が定められており、大きく5つの部分に分かれます。**  
**(開祭の儀、ことばの典礼、感謝の典礼、交わりの儀、閉祭の儀)**

## 開祭の儀

心の準備:「主に向かって喜び歌おう、み前に進み感謝を捧げましょう」(詩篇95)

ミサの始まりです。まず、ミサを始めるための歌(歌わずに祈りを唱える場合もあります)が歌われ、ミサの始まりの挨拶を交わします。

ミサを始める前に心の準備をし、自分の罪と過ちを認めながら、キリストに憐れみと赦しを求め、解放された清い心で、神の栄光を賛美します。

## ことばの典礼

耳を傾ける:「今日こそ、神の声を聞くなら、神に心を閉じてはならない」(詩篇95)

ここではおもに聖書をもとにして、神の言葉を聞きます。旧約聖書の朗読(第一朗読:信徒が朗読)、キリストの弟子が書いた新約聖書の朗読(第二朗読:信徒が朗読)、そしてキリストの事を書いた「福音書」の朗読(司祭)が行われます。第一朗読の後に、イスラエルの民の賛美歌(答唱詩篇)を歌い、又、第二朗読の後に、初代教会の信徒の賛美歌(アレルヤ唱)を歌います。

神を礼拝したイスラエルの民の感謝の歌、又はキリストを信じた信徒の賛美、さらに昔、神が語られた教えは、今生きている私たちの日常生活のためにも、重大な支えとなります。

朗読が終ると、司祭(神父)が今日の朗読を通して、神が私たちに伝えたいことを説明します。(説教)その後、信徒たちが一つになって自分たちが何を信じているかを宣言(信仰宣言)し、そして世界のために、取り成しの祈り(共同祈願)を奉げます。

## 感謝の典礼

人類の労働と自然の実りの奉納:「救いの杯を上げて主の名を呼び、満願の捧げ物を主にささげよう」(詩篇116)

ここから、ミサの中心部分に入ります。

共同体は賛美歌を歌いながら、信徒の代表者が祭壇にパンと水とぶどう酒を運びます。

それは、創られたもの全てを現し、キリストのあがないの神秘が現実的なものとされます。

神に捧げられるこれらの供え物は、司祭(神父)の手を通し、聖霊の交わりによって、キリストの体と血に変化します。これは私の体…私の血…これを私の記念として行いなさい(ルカ22, 19-20)

同時に、信徒の共同体もキリストのうちにあって、ひとつの体、ひとつの心、ひとつの霊となり、これこそがキリスト者の信仰の神秘なのです。

この状態のまま、主イエスによって、この世の歴史の流れと全人類を、神の慈しみに委ねます。

この間に献金(教会の様々な活動、あるいは全世界の救済の為)が行われますが、献金は自由です。

## 交わりの儀

魂の準備:「私は言おう、私の兄弟、友の為に“あなたに平和があるように”と」(詩篇122)

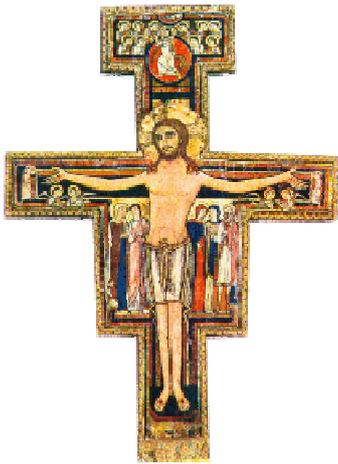
主の祈りを唱えます。

この祈りは、キリスト自身が教えたもので、教会で最も大切にされている祈りです。

そして司祭が平和を願い求めます。

この祈りの願いを具体化するために、信徒たちは互いに和解の印を示して、全員で挨拶『主の平和』を交わします。皆が列を作り、一人ひとりにキリストの体(聖体)が手渡され、それをいただきます。

※キリストの体(聖体)はカトリックの洗礼を受けた人だけに与えられますが、洗礼を受けていない未信徒の方は、信徒と一緒に行列に並び、司祭(神父)の前で手を合わせ、頭を少しお下げくだされば、祝福を受けることができます。(拝領の賛美歌を歌います)



## “主の祈り”

天におられるわたしたちの父よ  
み名が聖とされますように  
み国が来ますように  
みこころが天に行われるとおり 地にも行われますように  
わたしたちの日ごとの糧を 今日もお与えください  
わたしたちの罪をおゆるしてください わたしたちも人をゆるします  
わたしたちを誘惑におちいらせず  
悪からお救いください  
アーメン



## 閉祭の儀

派遣の祝福：「あなた方はこれらのことの証人となる」（ルカ24,48）

司祭が最後の感謝の祈りを唱えます。

教会のお知らせがあれば、ここで読み上げられます。

神から授かったさまざまな恵みは、教会の中に留まるものではなく、全世界に向かって影響を与える力があります。また、社会の中に戻っていく信徒が、それぞれの日常生活を通して、復活されたキリストが自分と共に居て、自分を生かすという事実の証人となるように祝福を受けます。

キリストによって、キリストと共に、キリストの内に聖霊の交わりの中で、  
全能の神、父であるあなたに、全ての誉れと栄光は、世々に至るまで、アーメン

## アーメン

「アーメン」という言葉は、ヘブライ語の「アマン」という言葉から派生した言葉で、「まことに、真実に」、「その通り」という意味で、旧約聖書には、「アーメンである神」という言い方が、神に対してなされており、私たちの神は、決して約束を違えることはない方ということを表現しています。

私たちはミサに参加しているとき、司祭の祈りに合わせて、「アーメン」と唱えます。

これも、司祭の唱える祈りに、同じ心で祈っていることを表すための意思表示です。

信徒として、この「アーメン」の言葉を口にするによって、ミサに参加していることを表しており、「アーメン」は簡単な言葉ですが、深い意味で一番短い信仰告白だと言えます。

## 聖書と典礼

ミサに参加される時は、聖堂入口から入ってすぐ左の机の上に、その日のミサで使用する『聖書と典礼』という小冊子と、ミサ中に歌う『カトリック典礼聖歌集』が置かれていますので、ご自由にお使いください。（祭壇の左に、その日に歌うカトリック典礼聖歌のページ数を表記しています。）

典礼聖歌集はミサ終了後に元の位置にお返しいただき、その日の『聖書と典礼』はお持ち帰りください。

■ミサに参加することにより、神と隣人への私たちの愛が強くなり、確かなものとなります。

■ミサは私たちのために、主イエス・キリストの晩餐を現在のものとしします。

■ミサによって私たち自身が、十字架につけられたキリストの奉献に結ばれます。

■ミサは全世界の救いのために、捧げられている教会の取り成しの祈りです。

ミサ中は信徒の動作に合わせていただき、分からない時は、近くの信徒にお尋ねください。



聖書と典礼



典礼聖歌集